

企業名： 伊藤忠食品

レポート名： コーポレートレポート2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

伊藤忠食品の掲げる「常に時代の変化と要請を先取りし、健康で豊かな食生活創りを通じて消費者と社会に貢献」という企業理念に沿った将来像のようなものが、コーポレートレポートから読み取ることができる。具体的には、物流拠点を全国規模で最適配置することで、安全・安心のサービスを提供したり、「社会課題解決への取り組みによる持続的成長基盤構築」という2030年をターゲットとした目標の中で、温室効果ガス排出量の2018年度比40%削減、食品廃棄量の2018年度比50%削減、ダイバーシティ推進（管理職に占める女性社員25%以上）を目指したりすることなどから、消費者の安全を考えながら社会に貢献することを理想像としていることを理解できる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

伊藤忠食品は1886年に創業し、130年を超える歴史のある会社であるといえる。この長い当社の歴史の中で磨かれてきたマーチャндаイシングや、物流に代表されるさまざまな卸売業は魅力的であり、また時代によって常に変化する顧客のニーズに130年以上の間、伊藤忠食品はそれぞれに適応し、対応してきた。このような当社の歴史に裏付けられた技術力、ノウハウ、そして信頼は替えのきかない、見えざる資産であり、競合優位性であるといえるであろう。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上記で示したように、伊藤忠食品の競合優位性は、当社の物流のノウハウや顧客からの信頼の元となる130年以上の長い歴史である。この当社の歴史という価値は、時間がたつにつれてなくなるものでなく、むしろこれからも箔がつくようなものであるといえるため、競合優位性に持続性があることは明らかであるといえる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

まず前提として、伊藤忠食品は「従業員一人ひとりの健康と働きやすさ・働きがいのある持続的な成長を目指して就業環境・生活習慣づくり」という目標を掲げており、大規模法人部門で「健康経営優良法人2022」に選ばれることから、企業全体として健康を強く意識していることが窺える。社員の健康・生活習慣改善を支援することが、働きがいのある就業環境の整備につながり、それが働きやすい職場環境作りにつながり、そしてそれが従業員のキャリア形成につながるといような連鎖が起こっている。この環境を根底に据え、

マネジメントスキル研修、テーマ別スキル研修、業務知識・ビジネススキル研修などの体系的な研修カリキュラムが構築されている点を考えると、伊藤忠食品では自身の人的資本を向上させることができるといえるだろう。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

まずこのコーポレートレポートのよかった点と言えば、一つ一つのテーマに対して、現実的であり、具体例が付随していた点であるだろう。環境に、そして社会にどのように貢献していくかを言及する際に現実的な目標であったり、具体的な数値を用いていたことが言葉に信憑性を持っているように感じた所以であると思う。

一方改善点を指摘するとすれば、伊藤忠食品のスローガンでもある「健康で豊かな食生活作り」に対しての言及が少なく、抽象的である点である。健康的に働けるような環境作り、従業員との関係性、新価値の創造などに関しては事細かに言及している傍ら、このスローガンである部分の説明が寂しい印象を持った。当社を表すようなスローガンであるなら、優先順位を上げて、もっと大々的に実現に向けた政策を述べるべきではないだろうか。